

安全・安心で持続可能な社会をめざして  
豊かに年をとっていくために  
総合保健体育科学センター  
小池晃彦

世界で最も長寿の国であり、経済的にも恵まれている日本の社会は、国民が安全・安心に暮らせる社会のはずであります。日本をはじめとする先進国では、20世紀の100年間に30年もの寿命の延長を実現しました。ところが、今国民の最も不安に思うことが、医療、介護、年金といった社会保障であり、自分自身の健康であります。なぜ、医療はここまで進歩してきたのに、“医療崩壊”といわれる事態に至り、不安が高まっているのでしょうか。米国をみると、65才以下の約20%の人が無保険であり、破産の最大の原因は医療費が払えないことであるいわれています。オバマ大統領は、経済改革とともに（またはその一環として）、医療上の大変革を起こそうとしています。日本においても、1) 医療はどこまで人々の健康に介入すべきか、2) 個人の健康管理は誰が責任をもつのか、3) 医療格差や健康格差をどのように解決するか、等の点に関し、「限られた医療資源」「医療における倫理」「日本における人口減少と世界の急速な人口増加」等の問題を直視し真剣に議論する必要がある時期に来ています。日本が豊かに年をとっていける社会であるために、社会全体として、また個人としてどのようにしたらよいかを考える機会に本セミナーがなればよいと思います。